

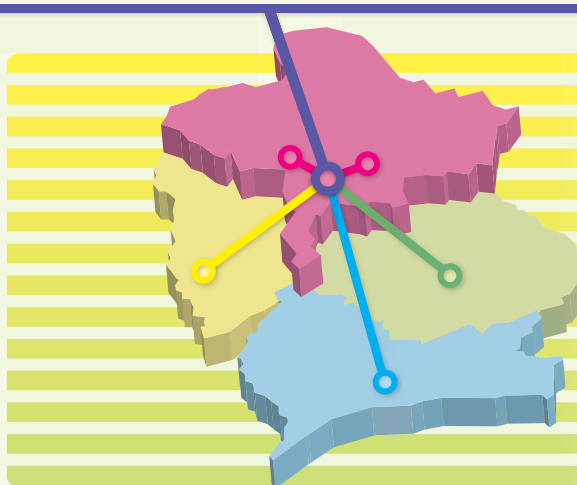
イノベーション創出による地域活性化に向けた

医工農連携シンポジウム

主催：首都圏北部4大学連合

- ・茨城大学
- ・宇都宮大学
- ・群馬大学
- ・埼玉大学

前橋工科大学



生涯健康で安全・安心な生活を営める社会の実現に向け、地域と大学が連携し、地域の活性化、産業の振興に寄与することを目的として、今回「医工農連携シンポジウム」を共同で開催します。

日 時 平成21年2月18日(水) 13:00～18:00

開催場所 前橋工科大学 1号館5階 151教室

〒371-0816 前橋市上佐鳥町460-1 TEL:027-265-0111

**対 象
参加費**

**医・工・農に関係する企業及び関係団体等関係者
シンポジウム 無 料
交流会 1000 円**

プログラム

13 時 ～ 14 時 10 分 開催挨拶 前橋工科大学 江守克彦 学長

第1部 基調講演

テーマ 「産業メンタルヘルスを巡る諸問題」

講演者 群馬大学大学院 医学系研究科 脳神経発達統御学講座 神経精神医学分野
三國 雅彦 教授

14 時 10 分 ～ 17 時 第2部 パネルディスカッション

テーマ 「医工農連携によるイノベーション創出と地域の活性化」

モデレーター 群馬大学共同研究イノベーションセンター

須齋 嵩 教授

パネリスト

前橋工科大学システム生体工学科

今村 一之 教授

茨城大学農学部生物生産科学科

阿久津克己 教授

宇都宮大学農学部バイオサイエンス教育研究センター長

夏秋 知英 教授

埼玉大学理工学研究科物質科学コース機能材料工学コース

西垣 功一 教授

群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻総合理学療法学

浅川 康吉 准教授

AdaBio (アダバイオ) 株式会社

足立 正一 代表取締役社長

17 時 ～ 18 時

交流会

申込方法 開催日の8日前までに、下記住所又はメールアドレスにハガキ又はメールにて、住所・所属・役職・氏名・電話番号を記載し連絡ください。

住所 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1

群馬大学共同研究イノベーションセンター

『医工農連携シンポジウム係』

TEL:0277-30-1183, 1188 担当：朝日、塚田

E-mail: asahi@eng.gunma-u.ac.jp

後援：群馬県・前橋市・群馬県商工会議所連合会・群馬県商工会連合会・前橋商工会議所
幹事校：前橋工科大学・群馬大学

前橋工科大学案内図



第1部 基調講演

講演者	三國 雅彦 教授	群馬大学大学院 医学系研究科 脳神経発達統御学講座 神経精神医学分野
題 目	産業メンタルヘルスを巡る諸問題	
要 旨	産業メンタルヘルスへの取り組み、特に、長年蓄積された知識・技術が職場で生かされなくなるうつ病への罹患労働者の早期発見、療養の確保、復職への適切な取り組みは健全な産業の発展に不可欠であり、一方、うつ病の病気の成り立ちや治療法に関する最近の研究成果には種々の産業シーズがあることをお話し、後の議論に結び付けたいと願っている。	

第2部 パネルディスカッション

モデレーター	須齋 嵩 教授	群馬大学共同研究イノベーションセンター
--------	---------	---------------------

パネリスト

今村 一之 教授		前橋工科大学 システム生体工学科
題目	可塑性増強を手段とした新規的機能 再建法の確立をめざして	
要旨	失われた生体機能を回復させる際、医工連携によってその機能を補助するような福祉機器を開発することは極めて重要であるが、近年の研究によって、よりウェアラブルな装置によって機能再建が可能になりつつある。ヒト-機械インターフェースを考える上で最も重要なことは脳の神経回路のもつ「可塑性」の応用であると考えている。	
阿久津克己 教授		茨城大学 農学部生物生産科学科
題目	有用遺伝子を導入した組換え微生物による植物病害のバイオコントロール技術の開発に関する研究	
要旨	植物生体防御学研究室では、環境負荷の軽減化を念頭においた有効かつ持続的な植物病害の防除法を構築するために、4つのテーマを立て研究を進めている。今回はその一つである有用なエーゼント微生物の探索ならびに有用形質を付加した組換えエーゼント作出による有効なバイオコントロール技術の開発を目指す研究について紹介する。	
夏秋 知英 教授		宇都宮大学農学部 バイオサイエンス教育研究センター長
題目	植物ウイルスの過去・現在・未来	
要旨	作物もウイルスに感染して甚大な被害が生じる。主な対策は抵抗性品種の利用やウイルス媒介昆虫の防除などであり、最近の減農薬の動きに伴って植物ウイルスに対するワクチン開発も盛んになってきた。植物ウイルスの将来的な応用として、植物で外来遺伝子を発現させるウイルスベクターとしての利用も実用可能な段階にはいっている。	
西垣 功一 教授		埼玉大学理工学研究科 物質科学コース機能材料工学コース
題目	高速分子進化技術の開発と 創薬・基礎科学への展開	
要旨	現在、埼玉県の産官学連携プロジェクト「埼玉バイオ」が進行中で、今年で7年目に入る。中心テーマは「高速分子進化技術による有用分子の創製」で、進化タンパク質工学や抗体工学などの基盤技術開発やその医薬・環境応用が進められている。演者らは技術開発と、その医薬分野への応用を目指している。このプロジェクトの概要と我々の取り組みを紹介する。	
浅川 康吉 准教授		群馬大学学部保健学科 理学療法専攻総合理学療法学
題目	健康づくりと地域活性化	
要旨	健康づくりと地域づくりとを結び付ける鍵は「住民主導」である。本パネルディスカッションでは、発表者らが取り組んでいる「介護予防サポーター育成事業」（群馬県全域）や「鬼石モデル」（群馬県藤岡市の筋力トレーニング事業）を事例として「住民主導」を支援するシステムについて考えてみたい。	
足立 正一 代表取締役社長		AdaBio 株式会社
題目	県名産“梅”（ミサトール）から難治性疾患 （がん・肝炎・・・）へのアプローチ	
要旨	人間社会のすばらしい文明構築のツケでしょうか？生活環境の発展に伴って、人間自身の体の進化は同調しているのでしょうか？否、原始縄文時代そのままです。文明の進歩と人間の進化のアンバランスから難治性疾患が誕生し、その治療に手こずっています。そこで地元名産“梅”製品ミサトールでこれらの疾患群に挑戦してみました。	

平成21年1月吉日

各 位

首都圏北部4大学連合
(茨城大学・宇都宮大学・群馬大学・埼玉大学)
前橋工科大学

イノベーション創出による地域活性化に向けた 医工農連携シンポジウム開催について(ご案内)

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、生涯健康で安全・安心な生活を営める社会の実現に向け、地域と大学が連携し、地域の活性化、産業の振興に寄与することを目的とした様々な取組が、様々な主体間の連携で模索・実施されています。

従来、群馬大学と前橋工科大学は、上記の目的について様々な連携を積重ねており、その一つの取組として、今回「医工農連携シンポジウム」を共同で開催することになりました。

一方、群馬大学が、北関東4国立大学の“首都圏北部4大学連合”の一員として、医工農に係る研究連携を進めていることから、“首都圏北部4大学連合”との合同主催の形をとることで、参加いただける企業関係者のチャンス拡大にも配慮しました。

今回の企画が、大学に蓄積された医学・工学・農学に係る研究成果や研究の将来動向等の発表から企業の視点でヒントを得ていただき、群馬県の健康科学産業振興施策、及び企業を中心とした地域イノベーション創出への動きともリンクし、地域産業振興に繋がることを念願しております。

皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加頂けますようお願い申し上げます。

- 開催日時 平成21年2月18日(水)13時～17時
- 開催場所 前橋工科大学1号館5階 151教室
〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町 460 番地 1 電話 027-265-0111 FAX 027-265-3837
- お問合せ先 住所 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1
群馬大学共同研究イノベーションセンター『医工農連携シンポジウム係』
TEL : 0277-30-1183、1188 担当 朝日、塚田 E-mail : asahi@eng.gunma-u.ac.jp

キ リ ト リ 線

FAX 参加申込書 (0277-30-1192)

企業名・団体名等			
住所 〒	—	TEL	
		FAX	
所属・部署名・役職	氏名	メールアドレス	交流会参加希望(○)
		@	
		@	

※ 交流会参加いただける方は、希望欄に ○ を付けてください。会費 1,000円は、当日受付で徴収します。